

《担当者名》高橋尚明 nao-takahashi@hoku-iryo-u.ac.jp

### 【概要】

解剖学は、10系統に分類される系統解剖学の中で、前期の解剖学で重点的に履修した「骨系」と「筋系」以外の8系統について器官の系統別に学ぶ。さらに各器官系の知識を整理統合することにより、人体の特徴的構造が生命の維持に不可欠な構造であると同時に、各臓器の構造が生命維持に必要な機能を反映したものであることを理解する。

### 【学修目標】

リハビリテーションに関わる専門科目を十分に理解するために、関連の深いリハビリテーション基盤科目とともに人体の形態と構造について理解し、それらの機能を関連付けて理解し説明することができる。また、医療従事者として必要な臨床考察力を得るために必要な解剖学的基礎知識について、身体を構成する器官・組織・細胞別に理解し説明することができる。

1. 脳の機能局在を理解し説明することができる。
2. 神経の伝導路について理解し、説明することができる。
3. 感覚器の種類と構造について説明できる。
4. 呼吸器系器官の概要について説明できる。
5. 心臓・血管・リンパ・血液などの循環器系器官の概要について説明できる。
6. 全身の動脈と静脈の分岐と走行について説明できる。
7. 口腔から肛門管までの消化管における個々の臓器の構造と機能について説明できる。
8. 消化管に付属する分泌腺（肝臓など）の構造と機能について説明できる。
9. 腹部消化器官に分布する動脈系と門脈系の特殊性について説明できる。
10. 腹膜、腸間膜、大網と腹膜後器官について説明できる。
11. 腎臓の構造と機能について説明できる。
12. 腎盂・尿管・膀胱など排尿路の構造と機能について説明できる。
13. 尿道の構造と機能の男女差について説明できる。
14. 男性と女性の生殖器の構造と男女差について説明できる。
15. 身体の内分泌器官の構造と分泌されるホルモンについて説明できる。

### 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	神経系各論（頭頸部） 1. 脳と脳の機能局在 2. 頸神経叢 3. 頸部の脈管と神経の走行	脳と脳の機能局在 脳神経とその働き 頸神経叢の構造と神経叢から分岐する神経 頭部および頸部の感覚領域と支配神経 頭部および頸部を走行する脈管と神経	高橋尚明
2	神経系各論（体幹） 1. 脊髄と伝導路 2. 体幹周囲の脈管と神経の走行	脊髄の伝導路 胸腔と腹腔の血管と神経 胸壁および腹壁の血管と神経	高橋尚明
3 ) 5	感覚器系1 1. 視覚 2. 聴覚・平衡覚 3. 味覚 4. 嗅覚 5. 皮膚 6. 体性感覚	眼球構造について理解する。 眼球運動をなす筋とその作用について理解する。 視覚の伝導路について学ぶ。 外耳から内耳にいたる耳の構造を理解する。 聴覚の伝導路について学ぶ。 舌の構造について理解する。 味覚の伝導路について学ぶ。 鼻の内部構造について学ぶ。 嗅覚の伝導路について学ぶ。 皮膚の構造について理解する。 皮膚に存在する感覚器の構造と種類について理解する。 体性感覚の伝導路について学ぶ。	高橋尚明
6 ) 7	呼吸器系 1. 呼吸経路 2. 気管・気管支 3. 肺	呼吸経路の構造について説明できる。 肺の構造について説明できる。	高橋尚明
8	循環器系	心臓の構造について説明できる。	高橋尚明

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
10	1. 心臓 2. 動脈・静脈 3. 血液 4. リンパ系 5. 胎児の循環経路	動脈の構造と静脈の構造について説明できる。 血液の組成と血球成分について説明することができる。 リンパ系の器官と各器官の構造について説明できる。 全身の動脈と静脈の分岐と走行について説明できる。 胎児の循環経路について説明できる。	
11 12	消化器系 <消化管> 1. 口腔 2. 咽頭 3. 食道 4. 胃 5. 小腸 6. 大腸 <消化腺> 1. 唾液腺 2. 肝臓と胆嚢 3. 膵臓 <血管系> 1. 動脈系 2. 門脈系 <腹膜・腹膜後器官> 1. 腹膜と腸間膜 2. 大網 3. 腹膜後器官	機械的消化と栄養吸収を担う消化管の基本構造を理解する。 消化管の各部位における特徴的な構造と機能との関連を理解する。 化学的消化を担う唾液腺、肝臓と胆嚢、膵臓の構造と消化液の分泌経路を理解する。 腹部消化器官への動脈系と門脈系の特殊性を理解する。 腹膜の概要と腹膜後器官を理解する。	高橋尚明
13	泌尿器系 1. 腎臓 2. 尿管 3. 膀胱 4. 尿道	血液からの老廃物の排泄を担う腎臓、尿管、膀胱、尿道の基本構造を学ぶ。 尿の産生と運搬、排泄について理解する。	高橋尚明
14	生殖器系 <男性生殖器> 1. 精巣と精巣上体 2. 精管と精索 3. 付属生殖腺 4. 陰茎 5. 尿道 <女性生殖器> 1. 卵巣 2. 卵管 3. 子宮 4. 膣 5. 外陰部	男性生殖器の基本構造を理解する。 精子発生と精子形成の概要を理解する。 勃起の概要を理解する。 女性生殖器の基本構造を理解する。 卵巣で卵子（卵胞）が成熟する概要を理解する。 胎盤の基本的構成を理解する。	高橋尚明
15	内分泌系 1. 下垂体 2. 松果体 3. 甲状腺 4. 上皮小体 5. 副腎 6. 精巣と卵巣 7. 膵島  まとめ 1. 解剖学の臨床的考察	内分泌器官の種類とホルモンの分類や一般的なはたらきを学ぶ。 各々の内分泌器官の構造を理解する。 各々の内分泌器官で分泌されるホルモンの種類とのはたらきを理解する。 カルシウム調節ホルモンについてまとめる。 消化管ホルモンについて概要を理解する。  検査・測定における解剖学的考察 臨床症状における解剖学・生理学的考察 解剖学的視点と治療手技について	高橋尚明

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による。

【評価方法】

試験 100%

定期試験は返却しないが、個別での問い合わせに対しフィードバックを行う。

**【教科書】**

坂井建雄 監訳 「プロメテウス 解剖学 コアアトラス 第3版」 医学書院 2019年

坂井建雄 他 著 「ぜんぶわかる人体解剖図」 成美堂出版 2021年

**【参考書】**

平沢興 著 「分担解剖学 解剖学2 脈管学・神経系 第11版」 金原出版 1982年

山田英智 監訳 「図解 解剖学事典 第3版」 医学書院 2013年

野村巖 著 「標準理学療法学・作業療法学 解剖学第4版」 医学書院 2015年

小川鼎三 著 「分担解剖学 解剖学1 総説・骨学・靭帯学・筋学 第11版」 金原出版 1982年

小川鼎三 著 「分担解剖学 解剖学3 感覚器学・内臓学 第11版」 金原出版 1982年

森優 他 著 「分担解剖学 解剖学続巻 組織学・発生学 第10版」 金原出版 1991年

藤田恒太郎 著 「人体解剖学」 南江堂 2003年

ネッター 著 「ネッター解剖学図譜」 丸善 2001年

井上貴央 監訳 「カラー人体解剖学」 西村書店 2003年

**【備考】**

教科書に加えて講義時に別資料を配布する。

**【学修の準備】**

1. 指定した教科書は、本授業を受講するための予習資料として指定頁を事前に読んでおくこと（約20分）。
2. 事前に配布する資料については、教科書等を参考に事前に目を通すとともに、サブノート形式の資料については事前に必要事項の記載などの予習を行うこと（約40分）。
3. 教科書および講義資料、講義内で解説した内容をもとに十分な復習を行うこと（約40分）。

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

（DP3）作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

**【実務経験】**

高橋尚明（専門理学療法士，死体解剖資格）

**【実務経験を活かした教育内容】**

理学療法士および解剖学研究の実務経験を活かし、前期から続く基礎医学の重要性ならびに基礎医学と臨床医学のつながりに関して解説を行う。また、系統解剖学の解説を通じて一般臨床医学における症状やその病理を理解していくための知識を講義する。